

# 授業のオンライン化と 非常勤講師 — 京都大学の事例から

京都大学 喜多 一

# 非常勤講師の多様な状況

- 本務の有無
  - 本務のある方
  - 本務のない方
- 担当授業
  - 特殊な科目を小数担当：主に専門教育
  - 多数の授業を一人で担当：主に教養共通教育
  - 授業の一部を担当：リレー講義など

# 非常勤講師のご出講が多い事例

- 文学部／文学研究科
  - 常勤教員だけでは対応できない多様な専門領域の授業を実施
- 教養共通教育（国際高等教育院）
  - 全学規模で同一科目を並行開講

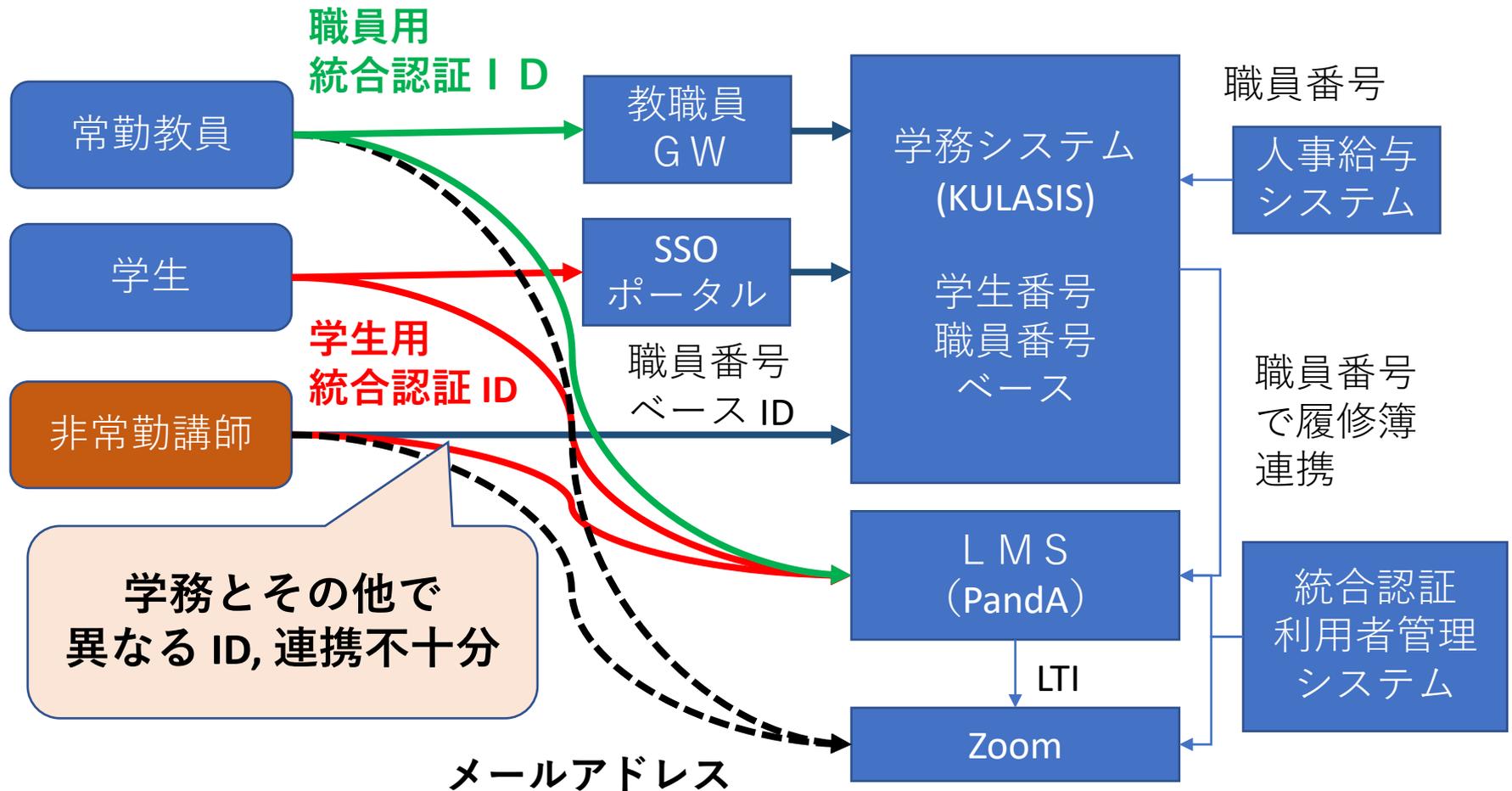
# 京都大学の教養共通教育の実情 —非常勤講師の任用の視点で

- 科目数：全科目約 3400、非常勤講師が約 900 科目で主担当
- 担当教員数：常勤 1200 人程度、非常勤 300 人程度
- 担当数の多い科目—開講数から学内教員だけでは難しい
  - 英語 267
  - 初修外国語：  
独語 114、中国語 94、日本語 69、仏語 58、スペイン語 52
  - 数学 121
  - スポーツ実習 36
- 1人あたり担当科目数：年最大 12 コマ、6コマ以上が 50 名、4 コマ以上が 139 名
- T A：900科目中 40科目程度で任用、経費より大学院生割り当てそのものの問題

# 非常勤講師の任用での問題 (コロナ以前から)

- 複数の大学にご出講
  - 大学により学年暦、時間割が異なる
  - 移動時間が必要
  - 大学によって ID、情報システム、サービスが異なる
  - 担当科目数が多い方もいる
  - 日程、給与の問題から FD が行いにくい

# 京都大学の教育関連 情報システムと ID



# 情報システムでの 非常勤講師の扱い

- 学務系システム：歴史的経緯で統合認証未対応
  - 職員番号を管理に使用
  - 雇用契約の度に職員番号が変わる
  - 非常勤講師には（最初の？）職員番号でID付与
- LMS、図書館、学内ネットワークなど
  - 学生用統合認証IDで対応
  - 職員番号が固定しないので学務系システムとLMSの自動連係ができない
  - LMSを使わない人は学務系システムのIDだけでよい、LMS用ID未取得
- Zoomは学生用メールアドレスで連携

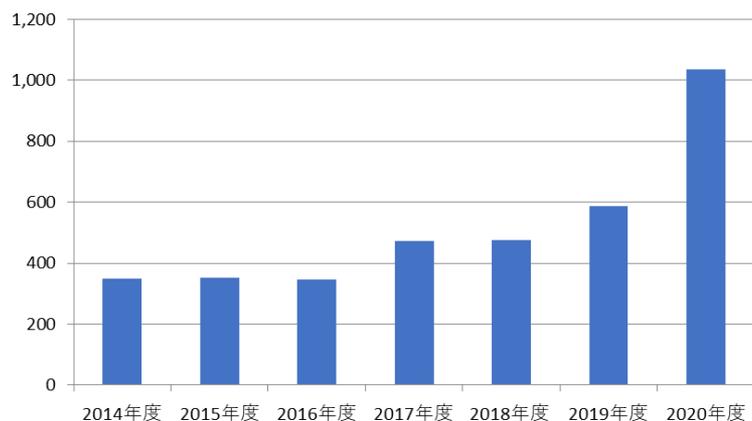
# 授業のオンライン化で生じたこと（大学側）

- 非常勤講師への大量の LMS 用の ID 交付
  - 従来は個別に窓口で払い出し
  - 部局で取りまとめて一括交付、部局で配布
- オンライン授業の実施方法についての多くの問い合わせが情報サービスの窓口
- LMS や Zoom などの講習会へのご参加
  - 専門科目は部局でフォロー
  - 教養共通教育は数の多さ、実施方法の変更（特に語学）などで対応が遅れた
- 非常勤講師へのサポートの難しさ
  - 教養共通教育での TA 利用の困難さ
  - 学内情報の伝わりにくさ

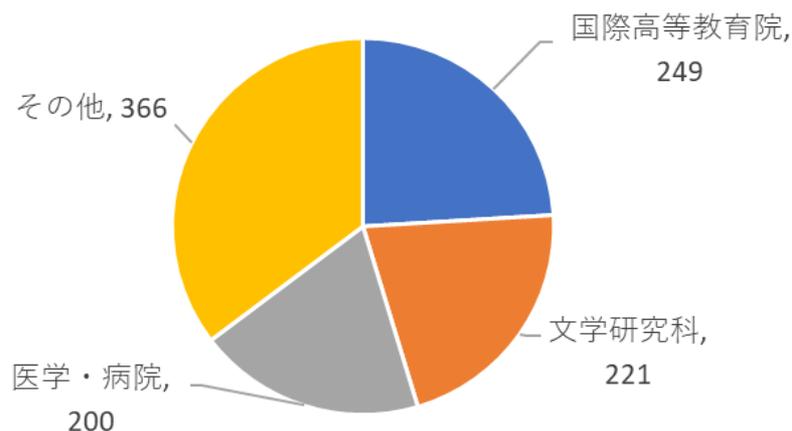
# 非常勤講師への統合認証 ID 交付

- 2020 年度に急増（約 400 件）
- 交付内訳で多いのは国際高等教育院（教養共通教育）、文学研究科、医学研究科・附属病院
- 教務データ上の教員数：3753名のうち非常勤 1114, うち ID 発行済 693

非常勤講師登録推移



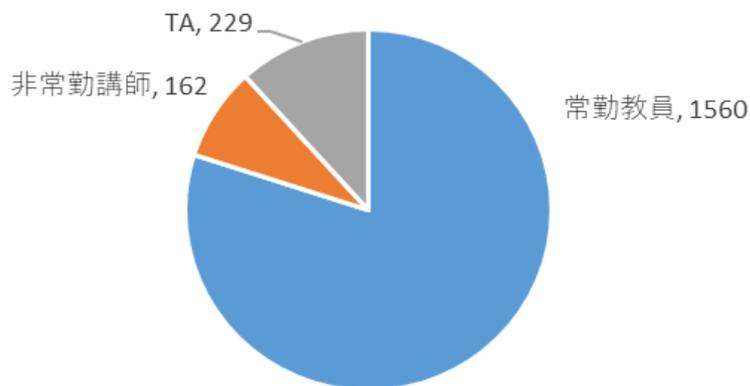
登録講師数



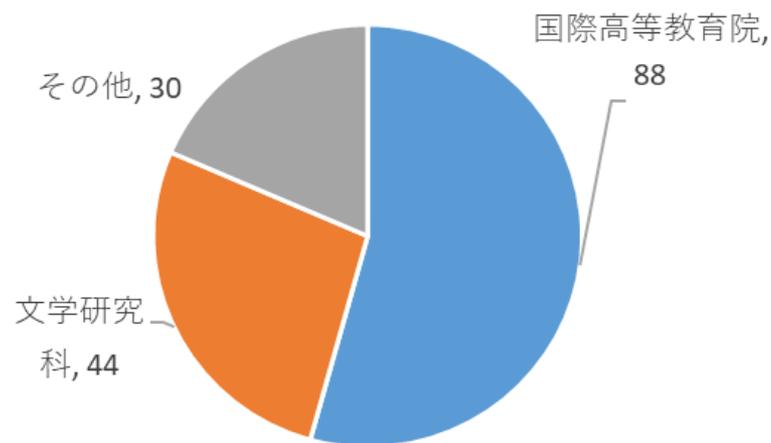
# オンライン授業講習サイト (PandA 101) 登録内訳

- 非常勤講師の方も多数登録

オンライン授業講習  
サイト登録者内訳



非常勤講師所属内訳



# 文学部／文学研究科の場合

- 非常勤教員を多数任用
  - LMS 用 ID 交付など年度初め業務量は多かった
- 研究科内でサポート体制を整備
  - オンライン開講サポート窓口設置 技術補佐員2名
  - LMS 上にヘルプサイト開設
  - ID/PW 失念への対応は多かった
- Zoom での同時双方向での授業形態中心
  - 学生の状況を調査、全学での wifi ルータ貸し出しを考慮
  - 授業は移行しやすい
- ご自身の ICT 環境に問題のある教員の存在
  - TA をつけて大学から配信
- 学内に授業配信用の環境が欲しい

# 教養共通教育で生じたこと

- ID 交付、LMS のコースサイト開設は一括対応
- 授業の実施方針は（特に語学で）大きく変化
  - 当初、語学は対面授業での実施を予定
  - 状況の変化で後に全面オンライン化
- 学生の通信環境への配慮を求め、オンデマンド、同時双方向など実施方法は教員に委ねられた
  - 年度当初は悲観的想定、同時双方向型に慎重な指示
  - 全学規模の実態調査と wifi ルータ貸し出し
    - 時間がかかった。
    - 同時双方向での対応可をアナウンス
  - 科目群によっては部会で一定の対応（英語、数学など）
- 部局でのオンライン授業の講習などが遅れた

# 教養共通教育、言語科目での同時 双方向型オンライン授業の実施率

- 言語でのばらつきがかなり多いが、同時双方向が全体の平均(62.3%)より少ない言語もある

言語	調査結果（6月以降）
英語 WL	43.1%
英語 R	41.1%
ドイツ語	47.1%
フランス語	68.2%
中国語	69.1%
スペイン語	100%
日本語	88.9%

# 非常勤講師側で生じたこと 一寄せられたご意見などから

- 出講先ごとに複数の ID, LMS, ビデオ会議システムの利用
  - ID 管理の負担
  - 習熟する時間が取れない
  - 専門科目では TA などが補助が得やすい  
(文学、教育学 (教職課程))
- 各大学の方針に急ぎの対応、過負荷などによるシステムの不安定さへの対応
- 語学、数学など非常勤講師に依存する科目固有の授業実施上の難しさがある

# 非常勤講師側で生じたこと

- 同時双方向型はオンデマンド型に比べ対応はしやすかった
- 授業準備や課題採点などでの実質的な業務時間の増加
  - オンデマンド型で顕著
  - 語学は担当科目数も多い
  - 膨大な時間が取られた（休日も返上など）というご報告もあり
  - 時間的余裕のなさから、同時双方向に移行する余裕がとれない
- 学生とも共通する問題
  - 個人の ICT 環境がオンライン授業に十分に対応できない人の存在
  - 孤立感（キャンパスに来ない、他の非常勤講師とのコミュニケーションの喪失）、Zoom を使ったオンライン講習などで救われたというご意見も
- 移動時間がないというメリット

# 今後に向けて

- 一過的に生じたこと：急ぎの対応など
- 継続的な問題の解消
  - 大学ごとのID発行
  - 多様な情報システム・サービスの使いこなしとその支援
  - 非常勤講師のオンライン授業配信環境
  - 非常勤講師に多く頼る科目のオンライン授業法の効率改善
  - 教員間のコミュニケーション改善